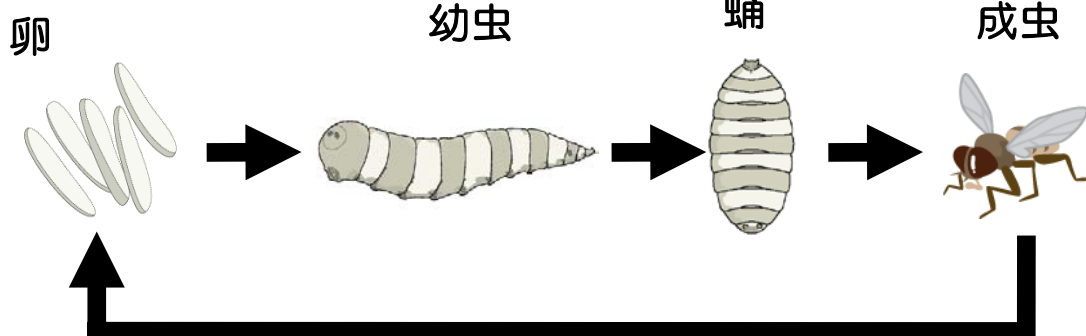


ハエ対策を行いましょう！

秋はハエの発生が増える季節です。ハエが引き起こす問題には、ストレスによる生産性の低下、ハエによる病原体の媒介、時にはハエの発生により周囲から苦情がでる場合もあります。ハエの発生を減らすため対策を行いましょう。

ハエ対策のポイント

ハエのライフサイクル



卵から成虫になるまで、環境にもよりますが、おおよそ8～15日かかります。成虫になるまでに対策を行うことで発生を90%抑えられるといわれています。そのため、①環境を整備してハエの発生源をなくし、発生したハエに対しては②薬剤を使用し駆除するようにしましょう。

① 環境整備

- **定期的な清掃**
こまめな除糞、残餌の除去を心がけましょう。
- **ふん尿処理施設における適切な処理**
乾燥、堆肥化により卵が死滅します。
- **餌には蓋や覆いをする**
特に水分の多い餌は注意が必要です。
- **畜舎周辺の草刈り**
草はハエの休息場所となります。



※ハエは湿気の多い所に産卵します。他にも畜舎の隅など、水が溜まりやすい所は注意しましょう。

②薬剤使用

<使用方法>

➤ 散布・噴霧・煙霧

器具を用い、ハエに対し広範囲に直接薬剤を当てる方法です。噴霧や煙霧では薬剤を微粒子にすることでハエの体内に取り込みやすくし、より優れた効果を期待できます。
* 畜体に直接薬剤がかからない様に十分注意をしてください。



➤ 毒餌法

毒餌の塗布や設置により殺虫する方法です。天井や壁などハエが集まりやすい場所への塗布や、毒餌の周囲にハエの死骸を残しておくことも効果的です。



<薬剤の種類（一例）>

➤ IGR 剤（幼虫発育抑制剤）

適応：幼虫。幼虫の脱皮を阻害する。効果が高く、人畜への毒性低い。

➤ 有機リン系製剤・カーバメイト系製剤

適応：幼虫・成虫。即効性で効果が高い。人畜への毒性高い。

➤ ピレスロイド系製剤

適応：幼虫・成虫。即効性で効果が高い。効果が短時間しかもたない。人畜への毒性低い。

※同じ薬剤の長期使用はハエが薬剤耐性を獲得しやすくなります。
説明書の用法・用量を守り適切な使用を心がけましょう。

その他にも、防虫ネット（2mm メッシュ）や粘着シートなど、物理的な方法も効果的です。様々な方法を組み合わせて効果的な対策を行いましょう。



ご不明な点がございましたら家畜保健衛生所までご連絡下さい。

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345
TEL : 0463-58-0152 FAX : 0463-58-5679

<西部出張所>（足柄上合同庁舎第2別館3階）

〒258-0021 足柄上郡開成町吉田島 2489-2
TEL:0465-83-3003 FAX:0465-82-6330